

4-1-7-2 発達心理科

1.概要と特色

1.1 発達心理科とは

幼児・学童期における発達と関連した行動の異常を有する児を対象として、主な診療を行っている。もちろん、発達心理科の医師、臨床心理士のみではなく、メディカル・ソーシャルワーカー(MSW)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)とも密接な連携を行いながら、発達期に関連した行動の異常を有する児の問題が、対象児のみの問題ではなく、家族あるいは学校現場を含んだ社会的な問題と密接に関連して起こっていることも多いため、保護者および教育関係者のみではなく、社会資源も活用しながら診療を行うことを原則としている。対象疾患は、発達障害としての広汎性発達障害(自閉症、アスペルガー症候群)、学習障害、注意欠陥・多動性障害のみでなく、様々なストレスに関連した行動障害(不登校、転換性障害、選択的緘黙、チック障害、トウレット障害など)と多岐にわたる。発達障害については、認知面からのアプローチから行っており、認知障害としての発達障害を認知神経心理学的に理解、評価し対応を科学的に解明することを目指している。

1.2 発達心理科の診療体制

外来診療として、主に発達障害は宮尾益知医長が行い、様々なストレスに関連した行動障害に関しては中野三津子医員が行っているが、家族的な問題がある場合保護者に対する働きかけなどが必要な場合には、共同して診療を行うこともある。また、成育医療専門修練医の広瀬宏之は、主に入院児の担当となり、主に認知神経心理学的なアプローチと、様々な精神科的な対応も行っている。外来診療は、発達障害、そのほかの行動障害を有する児について継続的に診療を行っている。

2.診療活動および研究活動

2.1 診療活動

外来診療は、新患の診療を宮尾と中野と広瀬が各々週に一単位行っているが、緊急に診療が必要な場合には、適宜再診枠にて診察するような体制もとっている。外来は、火曜日の午前中の病棟回診をのぞいて、連日午前、午後診療を行う体制をとっている。新患は、年間を通して週に約10名、年間500名以上であり、再診を含めた外来患者数は、連日30名近い。もっとも多い疾患は、発達障害であり中でも「広汎性発達障害」大多数である。入院は、発達障害を有しているために社会的な問題、精神的な問題などを発症している児と発達障害の神経心理学的検査を含めた認知面からの評価を行う短期入院とがあるが、他科からの認知発達面の治療前後の評価、入院している基礎疾患以外の認知面からの発達障害を含めた診断などのコンサルト・リエゾンが多い。

高機能広範性発達障害に対する社会技能訓練(SST)を、小学校低学年を対象に芸術療法(音楽療法)を基盤として長田有子先生が、また小学校高学年を対象として五十嵐一枝先生が隔週10名程度で行い、対人関係、社会性、自己イメージなどについて有用な結果を得た。

主診断の診断分類

(2003年7月 - 2004年3月の9ヶ月間)

ICDコード	n
F3: 気分(感情)障害	7
F4: 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	19
F5: 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	1
F6: 成人の人格および行動の障害	2
F7: 精神遅滞	32
F8: 心理的発達の障害	178
F9: 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	95
なし	2
保留	11
不明	8
合計	355

年齢分布

(2003年7月 - 2004年3月)

年齢グループ	n
乳児	0
幼児	139
小学校低学年	124
小学校高学年	60
中学生	22
高校生以上	10
合計	355
平均年齢	7.42歳

性別	n
男	257
女	98
合計	355

2.2 研究活動

研究活動は、体制と疾患の性質上臨床面から行うことになるが、脳内活動の神経心理学的な観点と関係した神経生理、神経の器質的な画像、機能画像などの研究活動を主に行っている。また、様々な疾患における、心理学的なアプローチも主な研究テーマとなっている。

また、白百合女子大学臨床心理センターとの共同研究として「者の立場、考え、感情」を理解するために必要な「こころの理論」の発達についておこなっている。

3. 研修

3.1 研修および研究会

発達心理科においては、医師のみでなく様々な分野の専門家に対する研修機関として、積極的に交流を図っている。

発達心理科研修

医師：東京大学小児科 木村育美、横浜市北部地域療育センター 阿瀬川聡美、
横浜市立病院 精神科 阿瀬川孝治、

医師以外：日本大学国際関係学部 村上靖彦、日本獣医畜産大学 柿沼美紀、
白百合女子大学 紺野道子

(1)宮尾益知：こころのケア研修会 児童期、思春期の発達障害や行動障害について。山梨，2003.7.2-3

(2)宮尾益知：LD/HDの理解について。平成15年度世田谷区立小学校教育研究会，保健教育部講演会，世田谷，2003.9.10

(3)宮尾益知：発達障害の成育ネットワークをめぐって。第3回世田谷リハネット・フォーラム，世田谷区保健センター，2003.12.6

(4)宮尾益知：これからの病弱教育対象児と新しい医療。病弱教育セミナー2004，難病の子ども支援全国ネットワーク，2004.1.10

(5)宮尾益知：教育現場に対する医療からのアドバイス - こころの問題に関連して - 。葛飾区医師会学校医研修会，葛飾，2004.3.3

3.2 こころの診療部公開セミナー「発達障害の理解と対応」 奇数月の最終火曜日午後6時半

- ・ 2003年11月25日 こころの診療部公開セミナー「発達障害の理解と対応」、国立成育医療センター
- ・ 2004年1月27日 こころの診療部公開セミナー「学習障害の理解と対応」、国立成育医療センター
- ・ 2004年3月30日 こころの診療部公開セミナー「脳機能から見た学習障害」、国立成育医療センター

4. 社会的活動

4.1 財団、大学など

帝京大学医学部の非常勤講師として、「医の倫理」と「発達障害」の講義

白百合女子大学の非常勤講師として、臨床発達国立成育医療センターにおける発達障害を有する児への医学的アドバイスを行った。

てんかん研究振興財団の研究選考委員として、選考を行った。

成長発達協会におけるこころの発達研究医委員会の委員として、シンポジウムの企画、選考などを行った。

早稲田大学子どもメディアプロジェクトの客員研究員として、子どもとメディアの関係についての社会活動を行っている。